

DISCOVERY

シコク発見



井上 孝志 INOUE Takashi

井上ワイナリー株式会社 代表取締役社長

<所在地> 高知県南国市蛸が丘2丁目3番5
<Website> <https://www.inoue-winery.co.jp/>

高知を元気にしたい。
ワイン造りを通じて、高知に貢献していきます。



ープレッシャーをはねのけてー

「高知でワイン造りらあできるはずないき、やめちよき」
私たちがワイン造りに着手した当初に言われた言葉です。いまだにそう思っている人もたくさんいると思います。

高知は、高温多雨で昼夜の寒暖差が少なく、さらには台風による被害も多いというブドウ栽培には適さない土地(※1)です。この気象条件をどう克服するかが最初の課題でした。

運よく、日本におけるブドウとワイン造りの権威である志村富男さんにご縁があったため、高知の気候に合った品種に巡り合うことができたこと、また、ブドウを雨から守る「レインカット方式」等を採用した栽培や、台風が来る前に収穫するなど、様々な対策を重ね、不可能と言われた高知でのワイン造りに光が見えてきました。

当初は相当なプレッシャーがありましたが、無理と言われて余計にやってやろうと思いました(笑)。

今では、皆さんから美味しいと言っただき、本当に手掛けて良かったと思っています。



※1 ブドウ栽培は、雨が少なく昼夜の寒暖差が大きい方がよいとされている。



—地域と共に—

事業を行う上で大切にしていることは、地域との共存共栄です。「高知を元気に、高知のために」ということをいつも考えています。

例を挙げると、今年から香北町の老人会さんと一緒にブドウ畑のお世話をすることになったのですが、非常に意欲的に取り組んでくださっています。こちらが何か指示をするでもなく、進んで手入れをしてくれたり、除草剤を撒いてくれていたなんてこともありました。

そうやって各土地・地域の方々と協力してやっていくことで、地域の皆さんから応援されていると感じるし、地域の方々も「おらが村のワイン」といった感じで毎年楽しみにしてくれていて、地域として元気になっている兆しが見えています。それと、現在高知県内では耕作放棄地が増えていますが、それらをブドウ畑として利活用することで、耕作放棄地の削減に貢献できればと思っています。



また、現在は山梨県と島根県のワイナリーに醸造を委託していますが、栽培から醸造までの全てを高知で完結させないと「土佐ワイン」とは言えないので、香南市野市町に醸造所を建設中です。

醸造所には試飲コーナーやレストラン、お土産物売り場も設置予定ですので、地域の雇用創出に貢献できますし、利益は何らかの形で地域に還元したいと思っています。



醸造所イメージ図 2020年冬 竣工予定
2022年 グランドオープン予定



—高知から世界へ(地産外商)—

同じく代表を務めている井上石灰工業(株)では、様々な石灰製品をお届けしてきました。その中で、日本でも実績のある有機農業(商品名:ICボルドー)の海外への販路拡大を通じて、ベトナムやタイなど東南アジアとも交流を深めています。

タイでは、現地の気候や土壌に適したブドウ栽培を研究する王室プロジェクトにも参加しました。

今後も海外と取引をする際は、(当社の製品以外の)高知の特産品も広めていきたいと思っています。

高知には、まだまだ県外や世界に知られていない「えいもん(※2)」がたくさんあります。しかしながら、地元根差した中小企業では、その「えいもん」を広く発信するのは難しい。当社既存のルートを使ってそれらを発信し、高知県外へ広く流通させるべく、高知における地元商社的な役割をしたいと思っています。

※2 土佐弁で「良いもの」



▶ —ワインツーリズム—

高知県は東西に長く、東部・中部・西部と、それぞれ特色のある地域に分かれています。カツオのタタキ、土佐あかうし、四万十うなぎ等、各地の特産品に合うワインをそれぞれの土地毎に作り、特産品とワインを目当てに、各地域を巡ってもらう「土佐流ワインツーリズム」が実現できればと思っています。

また、四国内のワイナリーと連携して、各県各所のワインと特産品を目当てに、お遍路さんのように四国内を巡ってもらうという「四国ツーリズム」に発展してくればいいなと思っています。

これらのことが実現できれば、高知、さらには四国の経済効果上昇にも貢献できるのではないかと考えています。

また、最終的な目標としては、5年以内くらいに高知県内で大きなワインフェスをやりたいと考えています。県内各地の畑のワインと、各市町村の特産品を皆さんに楽しんでもらえる、高知の秋の風物詩になればいいですね。



▶ —未来へのバトン—

「“今”の高知をしっかりと見ること」。これが私たちの役目だと思っています。これまで高知では、「若い人は都会のえい会社に就職せないかん」という風潮がありました。しかしそれでは若い人がどんどん県外に流出し、高知が廃れていってしまう。高知の若い人には、自分たちの手で高知を支えていき、自分たちが代々先人から受け継いできたバトンを、より良くして次につないでほしいと願っています。

高知に若い人を残すために、高知を魅力的な街にする。そのためには、まずは私たちが地域のためを思い、地域に役立つ会社になる。そして、そのような会社がどんどん増えてほしい。そうすれば、若い人は高知に帰ってくると思うし、街も活発になる。そんな未来を夢見ています。



(※掲載内容は2020年10月現在のものです。掲載している画像は同社から提供頂きました。)

編集後記

井上社長のお話からは「高知のために」という気持ちを強く感じました。ワイナリーは雇用面だけでなく、観光面でも高知に貢献することができ、多くの可能性を秘めた施設になると思います。

(高知財務事務所 財務課・梅田 陽佑)

自社だけでなく、地元高知のみならずとも成長していこうという思いが強く伝わってきました。また、周りからのプレッシャーがありながらも、高知でのワイン造りがだんだんと形になっていき認知されてゆく成長過程は、地方創生の源流を見ているようでした。高知でのワインフェスが楽しみです。

(高知財務事務所 管財課・藤田 琢人)

井上社長からは、高知をもっと元気にしたいという高知愛が溢れ出ておりました。「生まれ育った土地で先人たちから受けた遺産を、より良くして次の世代につなげないかん」という言葉が、地元を飛び出している自分の心に深く刺さりました。

また、今回の訪問は、様々ご縁により実現しました。「縁」の大切さを改めて実感することができました。

(高知財務事務所 総務課・西崎 泰一郎)